会長挨拶

鳩貝　太郎

本日は全国各地から全国学校飼育動物研究大会にご参加いただきありがとうございます．第17回全国学校飼育動物研究大会を開会するにあたり本研究会の会長として開会の挨拶をさせていただきます．

本日はお忙しいところ日本獣医師会理事であり群馬県獣医師会会長の木村芳之先生，東京都教育庁指導部義務教育課指導主事荒川弘樹先生に来賓としてご臨席をいただき本研究大会が開催できますことは心から嬉しく思います．ありがとうございます．

さて，本研究会は平成16年7月に発足し，日本獣医師会，日本小動物獣医師会の先生方や小学校や幼稚園，保育園の教育関係者などで，学校や園における適正な動物飼育の進め方や動物介在教育の在り方などの研究や実践研究の交流を進めてきました．獣医師会の先生方には，毎日の診療等でお忙しいにもかかわらず，学校や園の動物飼育への支援活動を積み重ねられ，各地で自治体や教育委員会との連携協定を結ぶなどの学校での動物飼育のシステム作りを進めていただいていることに敬意を表したいと思います．

一方，学校や園では，さまざまな直面する課題の対応に追われ，先生方は多忙を極めており，動物飼育の重要性に認識が疎かになってきています．そこに鳥インフルエンザなどの人畜共通感染症が大きなニュースとなったため学校の飼育舎で飼われていたニワトリやウサギなどの小動物を排除したり，病気や怪我で亡くなっても補充しないなどのことが各地で生じています．そのためかつては多くの学校で飼育されていたニワトリやウサギなどの小動物が，学校や園からいなくなり飼育舎が空き家になる状況が広がっています．

例えば，千葉県かずさ地区獣医師会の高山先生から君津市の小学校での飼育状況を教えていただきましたので紹介いたします．平成16年には君津市内の19の小学校，幼稚園ではニワトリ・ウサギが14校・園で飼育されていましたが，10年後の平成26年には４校でウサギを飼っているだけになっています．各地で同じような状況があるのではないでしょうか．

学校・園での動物飼育の体験は，次代を担う子どもたちが命の大切さを実感を持って学ぶことができる貴重な機会です．また，子どもたちは，動物たちを可愛がることにより自己効力感を持ち，自分たちが可愛がっている動物たちに支えられるとともに動物たちの命を支える人として成長できることを実感できます．このように動物から学び，命を大切にする態度を育むことを今こそ大切にしたいと思います．

本日は，「ごんぎつね」などの作者である新美南吉の研究者である保坂重政先生に記念講演をお願いいたしました．小学校の国語の教科書で永年扱われている「ごんぎつね」を書いた新美南吉はどのような人だったのか，また「ごんぎつね」を通してどのようなことを表現したかったのかなどについてお話を伺いたいと思います．保坂先生には本研究会のためにご講演をご快諾いただき心より御礼を申し上げます．

本日の研究大会のテーマは「飼育の実感が読みを深める」としました．「ごんぎつね」を通して人と動物の関係を考えるとともに，研究発表をお聞きし，動物飼育の実体験と表現力や考える力との関係，そして情意面の発達などとの関わりについて，参加者の皆さんで考え，意見交換をしたいと考えております．口頭発表をお願いした皆様にはポスター発表もお願いしました．ポスター発表の場で対面での質疑応答，意見交換をしていただきたいと思います．

本日の研究大会に参加していただいた皆様にとって充実した時間となりますことを祈念し私の挨拶とさせていただきます．

（国立教育政策研究所名誉所員／首都大学東京客員教授）